

介護職員初任者研修カリキュラム 通信平日課程

事業者名 有限会社 ティー・エス

研修事業所の名称 トータルサポートカレッジ 介護職員初任者研修通信コース

科目 1 職務の理解(6時間)				
○到達目標・評価のポイント ・研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境でどのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。 ・研修課程全体(130時間)の構成と各研修科目(10科目)相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ・視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。				
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習内容
②多様なサービスの理解	3時間	3時間	0時間	《講義内容》 ・介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保 サービスとそれいがいのサービスに付いて理解する
③介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	3時間	0時間	《講義内容》 ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・サービス提供現場の具体的イメージ アプランから始まるサービス提供に至るまでの一連の流れ、チー アプローチ、多職種との連携、地域社会資源との連携等、介護 サービスの 提供についてイメージを持たせる。
合計	6時間	6時間	0時間	

科目 2 介護における尊厳の保持・自立支援(9時間)

○到達目標・評価のポイント

介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・

福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動等を理解している。

・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QRL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。

・虐待の定義、身体拘束、及びサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習内容
①人権と尊厳を支える介護	5時間	1時間	4時間	《講義内容》 ・人権と尊厳の保持 ・ICF ・QOLの考え方 ・ノーマライゼーション ・虐待防止、身体拘束禁止 ・個人の権利を守る制度の概要
②自立に向けた介護	4時間	0.5時間	3.5時間	《演習内容》 ・自立支援 ・介護予防 ・介護予防の視点 ・介護予防施策 ・二次予防事業 地域全体で取り組む必要性
合計	9時間	1.5時間	7.5時間	

科目 3 介護の基本(6時間)

○到達目標・評価のポイント

介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している

- ・介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。
- ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。
- ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。
- ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。
- ・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。
- ・介護職におこりやすい健康被害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習内容
①介護の役割、専門性と多職種との連携	1.5時間	0.75時間	0.75時間	《講義内容》 ・介護環境の特徴と理解 ・介護の専門性 ・介護に関わる職種
②介護職の職業倫理	1.5時間	0.75時間	0.75時間	《演習内容》 ・職業倫理 ・倫理観の必要性 ・倫理綱領 ・事例紹介
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5時間	0.75時間	0.75時間	《講義及び演習内容》 ・介護労働における安全の確保 ・感染対策
④介護職の安全	1.5時間	0.75時間	0.75時間	《講義及び演習内容》 ・介護職員のこころの健康管理 ・介護職員のからだの健康管理
合計	6時間	3時間	3時間	

科目 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携(9時間)

○到達目標・評価のポイント

介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。

- ・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。
- ・介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。

例: 税が財源の半分であること、利用者負担割合

- ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。
- ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。
- ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度等が行う医行為などについて列挙できる。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習内容
①介護保険制度	3時間	0.5時間	2.5時間	《講義内容》 ・介護保険制度創設背景と目的 ・介護保険制度の動向 ・保険システム、要介護認定、ケアマネジメント ・介護報酬、財源、組織 ・介護保険サービスの分析と種類
②医療との連携とリハビリテーション	3時間	0.5時間	2.5時間	《講義及び演習内容》 介護における医療と福祉の連携 ・介護職と医行為 ・介護職と医行為リハビリテーション
③障害者総合支援制度及びその他の制度	3時間	0.5時間	2.5時間	《講義内容》 ・障害者自立支援制度の背景 ・障害者自立支援制度の基本的な構造 ・しくみと運営の現状 ・生活保護制度 ・成年後見制度 ・日常生活自立支援事業 ・虐待防止制度
合計	9時間	1.5時間	7.5時間	

科目 5 介護におけるコミュニケーション技術(6時間)

○到達目標・評価のポイント

高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。

- ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
- ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。
- ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
- ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習内容
①介護における コミュニケーション	3時間	1.5時間	1.5時間	《講義及び演習内容》 ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法 ・利用者、家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況に応じたコミュニケーションの実際
②介護におけるチームの コミュニケーション	3時間	1.5時間	1.5時間	《講義及び演習内容》 ・記録による情報の共有化 ・介護サービスにおける報告、連絡、相談 ・コミュニケーションを促す環境
合計	6時間	3時間	3時間	

科目 6 老化の理解(6時間)

○到達目標・評価のポイント

加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、
自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的
特徴について列挙できる。

例:退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、
知的機能の低下によるいよくの低下等

・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙
できる。

例:脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習内容
①老化に伴うところとからだの 変化と日常	3時間	1時間	2時間	《講義及び演習内容》 ・老化のメカニズム、寿命、老化の特徴 ・観察ポイント、知的能力の老化と特徴 ・老化による日常生活への影響 ・身体的な老化と日常
②高齢者の健康	3時間	2時間	1時間	《講義及び演習内容》 ・老人病、成人病、生活習慣病 ・代表的な死因と生活習慣病 ・老化に伴う疾患 ・代表的な生活習慣病
合計	6時間	3時間	3時間	

科目 7 認知症の理解(6時間)

○到達目標・評価のポイント

介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。

- ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
- ・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
- ・認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。
- ・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。
- ・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。
- ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。
例:生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること。
- ・認知症の利用者とのコミュニケーション(言語、非言語)の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方(良い関わり方、悪い関わり方)を概説できる。
- ・家族の気持ちや、家族を受けやすいストレスについて列挙できる。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習内容
①認知症を取り巻く状況	1.5時間	1時間	0.5時間	《講義及び演習内容》 ・認知症ケアの理念 ・「生活者」としての理解 ・利用者その人が生活の主人公 ・利用者本人の「感情面」や「思い」をみていく
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5時間	1時間	0.5時間	《講義及び演習内容》 ・認知症とは ・認知症に似た状態 ・認知症の診断、評価スケールについて ・認知症の主な原因となる疾患
③認知症に伴うこころとからだ変化と日常生活	1.5時間	0.5時間	1時間	《講義及び演習内容》 ・中核症状 ・周辺症状 ・認知症利用者への対応
④家族への支援	1.5時間	0.5時間	1時間	《講義及び演習内容》 ・家族への支援、家族のレスパイト ・エンパワーメント
合計	6時間	3時間	3時間	

科目 8 障害の理解(3時間)

○到達目標・評価のポイント

障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。

- ・障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
- ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習内容
①障害の基礎的解説	1時間	0.5時間	0.5時間	《講義内容》 ・障害の概念、ICFの考え方 ・障害者福祉の基本理念
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、 かかり支援などの基礎的知識	1時間	0.5時間	0.5時間	《講義及び演習内容》 ・視覚障害、聴覚、平衡機能障害 ・音声、言語、咀嚼機能障害、肢体不自由 ・内部障害、知的障害、精神障害、
③家族の心理、かかり支援の理解	1時間	0.5時間	0.5時間	《講義及び演習内容》 ・家族の心理 ・家族への支援
合計	3時間	1.5時間	1.5時間	

科目 9 こころとからだのしくみと生活支援技術(7.5時間)

○到達目標・評価のポイント

介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。

尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

- ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
- ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法、留意点、その根拠等)について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
- ・利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
- ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。
- ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。
- ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
- ・装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
- ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携(ボランティアを含む)について、列挙できる。

	項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習内容
I 基本知識の学習	①介護の基本的な考え方	2時間	1.5時間	0.5時間	《講義及び演習内容》 ・介護に関する専門的知識、技術の必要性 ・個別支援の重要性 ・法律上の規定や考え方 ・生活の質(QOL)の重要性
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4時間	3時間	1時間	《講義及び演習内容》 ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・適応行動とその阻害要因

I 基本知識の学習	項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習内容
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3.5時間	3時間	0.5時間	《講義及び演習内容》 ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨、関節、筋に関する基礎知識 ・中枢神経系と末梢神経系に関する基礎知識 ・自立神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的にとらえる
II 生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	2時間	1.5時間	0.5時間	《講義及び演習内容》 ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援
	⑤快適な居住環境整備と介護	2時間	1.5時間	0.5時間	《講義及び演習内容》 ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ・事例検討
	⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に	7時間	6時間	1時間	《講義内容》 ・整容に関する基礎知識 《演習内容》 ・衣服の着脱(片麻痺、ベット上) ・口腔ケア、化粧、爪切り
	⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	10時間	9時間	1時間	《講義内容》 ・ボディメカニクスの原理 ・廃用症候群の知識 《演習内容》 ・体位の種類、用具の種類 ・体位変換、車椅子の介助、移乗介助の実際 ・歩行介助
	⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	6時間	1時間	《講義内容》 ・食事の意義と目的、栄養素とその働き、安全性 ・高齢者の食事 《演習内容》 ・食事介助の技法、誤嚥予防の実際
	⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	6時間	1時間	《講義内容》 ・入浴、清潔を保つことの意義 ・皮膚の構造と知識、入浴補助用具 《演習内容》 ・入浴介助のポイント、部分浴、清拭、整容の実際

	項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習内容
Ⅱ 生活 支援 技術 の 講義・演習	⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	6時間	1時間	《講義内容》 ・排泄が及ぼす3つの側面 ・排泄が及ぼす3つの側面 ・排泄環境整備、排尿障害の知識 《演習内容》 ・排泄介護の実際、陰部洗浄の手順と実施
	⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	6時間	1時間	《講義内容》 ・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠障害時の介助と援助方法 ・寝室の環境 ・睡眠阻害要因 《演習内容》 ・福祉用具の活用
	⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	4時間	3時間	1時間	《講義内容》 ・死生観について、週末期ケアとは ・死にいたるプロセス、高齢者の心理 ・看取りにおける介護職員の基本的態度 ・看取りにおける倫理観 《演習内容》 苦痛のない死への支援、遺族へのグリーフケア
Ⅲ 生活 支援 技術 演習	⑬介護課程の基礎的理解	4時間	3時間	1時間	《講義内容》 ・介護課程の展開、介護課程の基礎的理解 ・介護課程の必要性 《演習内容》 介護課程の流れ
	⑭総合生活支援技術演習	8.5時間	7.5時間	1時間	《講義内容》 ・場面における介護のポイント、考察 《演習内容》 事例を用いた演習
合計		75時間	63時間	12時間	

科目 10 振り返り(4時間)

○到達目標・評価のポイント

研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。

- ・在宅、施設の何れかの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習(身だしなみ、言葉遣い、応対の態度等の礼節を含む。)を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。
- ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させうえて、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。
- ・修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるように促す。
- ・最新知識の付与と、次のステップ(職場環境への早期適応等)へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。
- ・介護職の仕事内容や働く現場、事業者等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ましい。(視聴覚教材、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等)

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習内容
①振り返り	3時間	3時間	0時間	《講義及び演習内容》 ・今後の継続的課題の整理 ・重要事項の整理 利用者の自立を支援する介護のあり方 ・利用者の状態像に応じた介護と介護課程について ・チームアプローチの重要性
②就業への備えと研修終了後における継続的な研修	1時間	1時間	0時間	《演習内容》 ・今後の継続的課題に対する個別検討作業 ・形態別及びサービス種別ごとの事例紹介と検討
合計	4時間	4時間	0時間	
全カリキュラム合計時間	130時間			

